

# 戦争に協力した教会

シリーズ～さよならキリスト教～

2024/8/4

# 軍国主義(天皇の神格化)の逆風

## • 順調に宣教が進んだ明治時代

- 禁教が解かれた後、ミッションスクールを中心に全国に福音が伝えられた

## • 1889年(明治22年)「大日本帝国憲法」発布

- 「**天皇**ハ神聖ニシテ犯スベカラズ」
- 強い国作りのために天皇の神格化した(**ドイツにおけるキリスト教の役割に学んだ**)

## • 翌年「教育ニ関スル勅語(**教育勅語**)」

- 「勅語」とは天皇のお言葉のこと
- 「古来天皇は徳をもって統治してきた…もって皇室を扶翼すべきである」

# 戦争と政府による管理

- 立て続けに起こった(起こした)戦争

- 日清戦争(1894年)・日露戦争(1904年)・第一次世界大戦(1914年)

- 政府による宗教界に対する戦争協力の要請

- 日中戦争の勃発(1937年)
- 文部大臣が宗教団体代表者に「**挙国一致運動**」を要望する

- 「**宗教団体法案**」の成立(1939年／昭和14年)

- 「臣民たる義務に背くとき」は教団の認可取り消し
- キリスト教界はこの法案を歓迎した！

# 戦争と政府による管理

- 立て続けに起こった(起こした)戦争

- 日清戦争(1894年)・日露戦争(1904年)・第一次世界大戦(1914年)

- 政府による宗教戦争協力の要請

- 日中戦争の勃発
- 文部大臣が宗教戦争協力の要請をする

1898年以来  
4度目の提出  
で成立した

「**挙国一致運動**」を

- 「**宗教団体法案**」の成立(1939年／昭和14年)

- 「臣民たる義務に背くとき」は教団の認可取り消し
- キリスト教界はこの法案を歓迎した！

# 教会の合同運動と天皇制の擁護

## •キリスト教における「諸教派合同運動」

- 宣教再開以後、教派教団の林立・分立はキリスト教界全体の課題だった

- 「**日本基督教連盟**」(1923年発足)はキリスト教諸団体の「親和協同」を目指していた

## •「皇紀二千六百年」を祝う信徒大会

- 1940年(昭和15年)が神武天皇が即位してから2600年に当たるとして国を挙げて祝った

- キリスト教会でも青山学院校庭において2万人を集めて「**奉祝大会**」が行われた

- 大阪・仙台・阪神・京都。福岡・大牟田・小倉などでも開催



# 宣言文(前文)

神武天皇国を肇め給いしより茲に二千六百年皇統連綿としていよいよ光輝を宇内に放つ  
光栄ある歴史を懐(おも)うて吾等うたた感激に  
耐へざるものあり。…

今や世界の變局に処し、国家は体制を新たにし大東亞新秩序の建設に邁進しつつあり。  
吾等基督信徒もまた之に即応し教会教派の  
別を棄て、**合同一致を以て国民精神指導の  
大業に参加し進んで大政を翼賛し奉り、尽忠  
報国の誠を致さんとす。**

# 「日本基督教団」の誕生

## • 「合同準備委員会」の誕生(1940年)

- 各教派教団から委員を出し、教会合同を具体的に協議した
- 各教派の歴史と伝統・教義の違いなどで難航

## • 「日本基督教団」の誕生(1941年3月)

- 第7回の委員会において「ブロック制」が議決
- 11ブロック(34教派・24万人の信徒)となった

## • 「ブロック制」廃止・完全合同(1942年11月)

- 「一君万民」という国体の大義に添い、キリスト教の「日本化」のために

# 戦争に協力した教会

## •「聖戦」意識

- 「大東亜共栄圏」の名の下にアジアを欧米から解放する戦争(聖戦)という幻

## •日本基督教団統理者の伊勢神宮参拝

- 富田統理が伊勢神宮に参拝し、わが国における新教団の発足を報告し、その発展を祈願した

## •具体的な戦争協力

- 慰問袋や慰問使派遣のための献金
- 「**軍用機献納運動**」:軍用機のための献金
- 「**基督者は祖国のため**結束して祈禱に励むべし****」  
(太平洋戦争開戦の翌日・統理者からの通達)



# 戦時下のクリスチャン

## •「天皇」と「主なる神」の住み分け

- 表面的には天皇制を認めつつも、心の中では主なる神を唯一の神と信じる(二面性)

## •戦争に反対できない状況

- わずかでも戦争に反対するならば「非国民」と呼ばれ、家族全体を危険にさらすことになった

## •迫害を受けた人々

- 反戦・平和主義(無教会派/矢内原忠雄・燈台社)
- スパイ容疑(救世軍)
- 一斉検挙・結社禁止(ホーリネス教団)

# 日本基督教団の反省文(抜粋)

「わたくしどもは、教団成立とそれにつづく戦時下に、教団の名において犯したあやまちを、今一度改めて自覚し、主のあわれみと隣人のゆるしを請い求めるものであります。…「世の光」「地の塩」である教会は、あの戦争に同調すべきではありませんでした。…しかるにわたくしどもは、教団の名において、あの戦争を是認し、支持し、その勝利のために祈り努めることを、内外にむかって声明いたしました。まことにわたくしどもの祖国が罪を犯したとき、わたくしどもの教会もまたその罪におちいりました。わたくしどもは「見張り」の使命をないがしろにいたしました。…心の深い痛みをもって、この罪を懺悔し、主にゆるしを願うとともに、世界の、ことにアジアの諸国、そこにある教会と兄弟姉妹、またわが国の同胞にこころからのゆるしを請う次第であります。」

1967年 復活主日 日本基督教団総会議長 鈴木正久

# 私たちはどうすべきか

- **天皇の神格化(特別扱い)に気をつける**
  - 現憲法下では、天皇は「象徴」に過ぎない
  - 天皇の神格化を戦争に利用したことを忘れない！
- **徹底した反戦・平和主義**
  - 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」マタイ5:9
- **聖書的視点を持ち続ける**
  - 「**あなたがたはこの世に倣ってはなりません**。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」(ローマ12:2)